



経済成長と 現代 1

大阪の万博会場にタイムスリップ

→ 学習課題

- 1960 年から 70 年にかけての日本の雰囲気を想像しよう

私のイメージ

→ 歴史に迫るスナップショット



▲日本万国博覧会の様子(1970 年大阪)



この間、おじいちゃんの家を訪ねて岐阜まで行ったんだけど、新幹線に乗ればあっという間だったよ。



便利な世の中だよね。ところで新幹線はいつごろ開通したのだろう？



確かおじいちゃんは、新幹線に乗って「バンパク」を見学に行ったって言ってたなあ…新婚の時の思い出だって！



それは 1970 年の「日本万国博覧会」のことですね。万博は「人類の進歩と調和」をテーマに開催されました。万博は、戦後の日本の経済発展を象徴する出来事だったんですよ。



なるほど！日本はこの時期に、新幹線の開通など、めざましい「進歩」を遂げたんだね。

でも「調和」って、何を意味していたんだろう…



◀ 万博テーマ決定を伝える新聞記事



▼月の石が展示されたアメリカ館前の行列

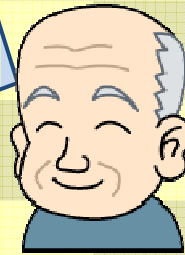


▼月の石



日本万国博覧会は 1970 年に大阪で 183 日間開かれた博覧会で、当時、史上最大の規模を誇っていたんだ。私たちは、開催地の名から「大阪万博」と呼んでいたな。英語では、EXPO'70 と表示されていたね。

全国から新幹線や自動車を使ってたくさんの人が来場し、その数は 6,422 万人(当時の総人口の 2 分の 1)だったそうじゃ。とくにアポロ 11 号が持ち帰った「月の石」を展示したアメリカ館の行列は延々と続き、途中であきらめて他の館へ行く人もたくさんいたね。その混雑ぶりから、テーマをもじって「人類の辛抱と長蛇」って言われたな。万博では、広大な土地を切りひらいて、いろんな施設をつくったけど、194 億円の黒字を記録したというから、当時は景気が良かっただろうねえ。



▼日本各地の景観の移り変わり

1945 年頃

1970 年頃

2012 年

(東京・銀座)
大都市



(岡山・水島)
工業地帯



(人々の暮らし)
家庭



いろいろな変化を見つけることができるね。
時代ごとの違いを、たくさん探してみようよ！



経済成長と
現代2

戦後の経済成長について知ろう

→ 学習課題

- 戦後、日本の経済と私たちの暮らしは、どのように変わったのだろうか？

私の予想

--	--

→ 時代の見取り図

時代	世紀
江戸	19
明治	
大正	20
昭和	
平成	21

- ・1945 ポツダム宣言受諾—敗戦
- ・1946 農地改革 日本国憲法の公布
- ・1950 朝鮮戦争はじまる
- ・1953 テレビ放送開始
- ・1955 耐久消費財の普及
- ・1960 池田勇人内閣「所得倍增計画」
- ・1964 東海道新幹線開通
- ・1968 国民総生産が世界第2位に
オリンピック東京大会開幕
- ・1970 大阪で万国博覧会が開催される
- ・1971 公害反対運動が高まる

▲ 日本の経済成長に関する出来事

経済の
復興と発展

▲池田勇人首相

みなさんの所得を10年で2倍にします。私はウソを申しません。

第二次世界大戦は日本経済に壊滅的な打撃を与えました。空襲で多くの工場が焼け、鉄工業の生産は戦前の3分の1以下まで落ち込みました。しかし、1950年に始まった朝鮮戦争は日本経済に特需をもたらし、戦後の復興を早めました。日本経済は、1950年代半ばには戦前の水準まで回復し、その後、年平均約10%の成長を続ける高度経済成長期をおかえます。当時の池田勇人内閣は、所得倍增をスローガンに掲げ、経済成長を積極的に推し進めました。

この時期、日本の産業の中心は農業や軽工業から重化学工業に移り、エネルギー源は石炭から石油に変わり、1968年には国内総生産(GNP)で世界第2位になるなど、経済のしくみも大きく転換していきました。

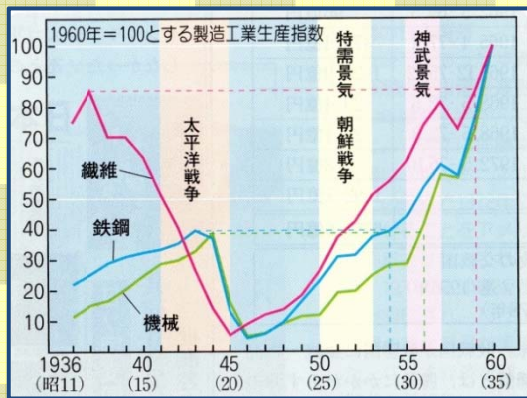
人々の
暮らしの変化

▲三種の神器

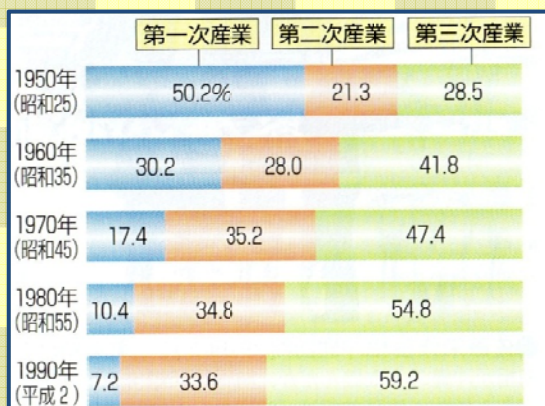
終戦直後の国民生活は、失業者の大量発生や食糧不足で、苦しいものでした。しかし、戦後行われた農地改革で多くの自作農が生まれ、農家の生産意欲は高まり、地方の生活水準は徐々に改善されていきました。

高度経済成長期になると、都市で働く工業労働者が増え、国民の所得はさらに伸びました。その結果、家電や自動車は、庶民の手に届くところまで来ました。安く質の良い工業製品の開発、皇太子ご成婚やオリンピックなどのイベントも、人々の消費をかきたてました。

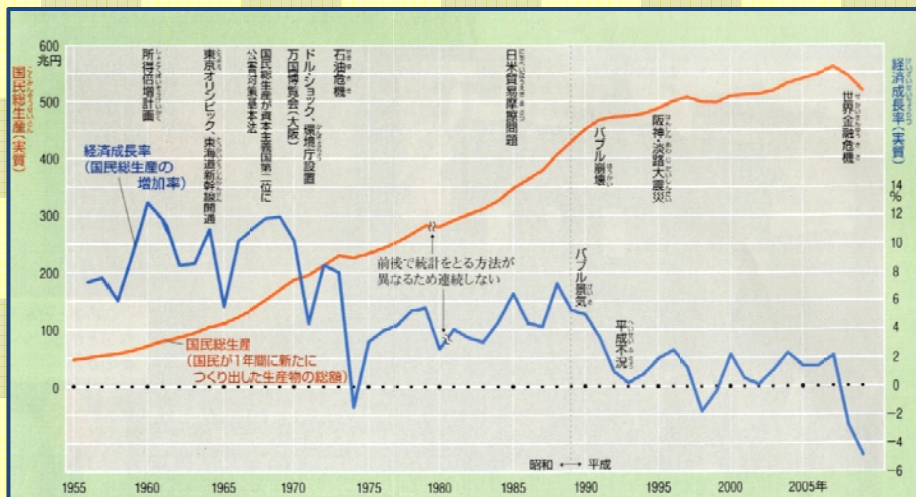




▲戦後からの工業生産の復興



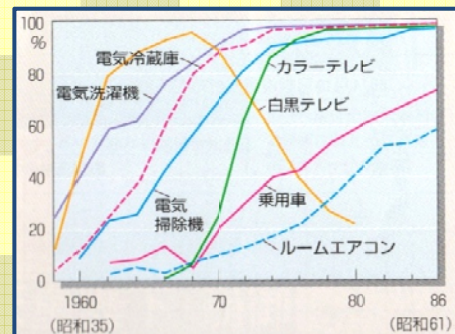
▲産業別就業者数の変化



▲国民総生産と経済成長率の変化



▲東海道新幹線の開通式



▲家庭電化製品の普及



I 用語の意味を調べよう



II 事実を比較・分類しよう



右のような変化を、「産業構造の高度化」と呼びます。



この頃には、生産のあり方も、消費のあり方も、大きく変わっていったんだね。



III 事実の理由を説明しよう

1. 次の用語の意味を調べよう。

特需, 高度経済成長, 農地改革, 産業構造の高度化, 三種の神器, 国民総生産, 所得倍増計画

2. 上のグラフをもとに下の表を完成させて, 戦後の産業別就業者数の変化をまとめよう。どういう傾向が読み取れるだろうか。

	代表産業	1950年	1960年	1970年
第1次産業(%)				
第2次産業(%)				
第3次産業(%)				

3. 上のグラフをみて, 1955~1965年と1965年以降に普及した家庭電化製品をまとめよう。どういう違いが読み取れるだろうか

1955~1965年	
1965年以降	

4. 2と3の変化の理由を, できるだけ多くの視点から説明してみよう。



経済成長と
現代3

経済成長から現代の特色を捉えよう

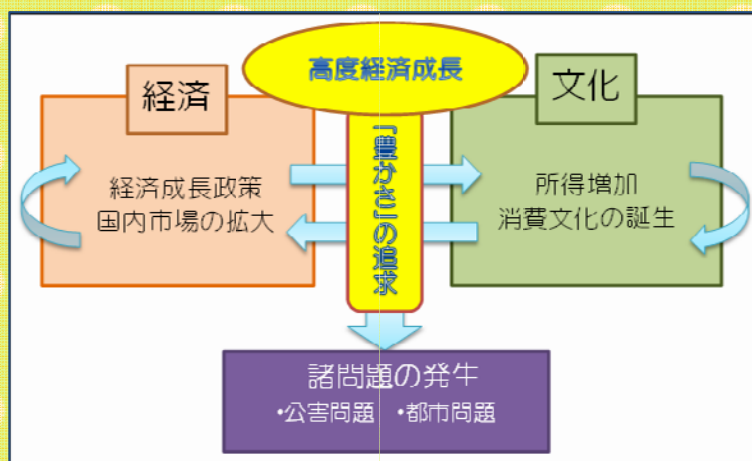
→ 学習課題

- 日本は、なぜ急速な経済成長を遂げることができたのだろうか？
- 経済成長は、どのような問題を引き起こしたのだろうか？

私の結論

--	--

→ 時代を捉えるモデル



▲経済成長と文化変容のモデル

「豊かさ」の
あくなき追求

耐久消費財とは？

長期間の使用に耐える消費財。
価格が比較的高い。

⇔非耐久消費財

食品や衣服など短期間で使用
される。価格は比較的安い。

戦後、農村や都市の労働者は、農地改革や産業の復興とともに所得を増やしました。あわせて国民が消費にまわすことのできるお金も急速に増加し、人々は便利さ・豊かさを求めてテレビや自動車などの耐久消費財を所有するようになりました(消費文化の誕生)。国内市場の広がりによって、企業は耐久消費財を大量生産するようになりました。政府は、税収が増加すると、工場用地の整備や補助金の交付などで企業を支援しました。

このように国民・企業・政府が一体となって「豊かさ」を追求できる状況が、日本の経済成長を支えました。

「豊かさ」の
影で

▲マスクを付けて通学する小学生

「豊かさ」が追求される過程で、さまざまな問題にも直面しました。工場の製造過程で発生した有害物質が、海や川、大気中に排出された結果、水俣病や四日市ぜんそくなどの公害問題が起こりました。

新しくものを買って消費する文化が広まると、廃棄物の量が増えていきます。当時は、焼却施設や埋め立て地の整備が追いつかず、またリサイクルの意識やしくみも十分ではなかったため、ゴミ問題が深刻化してきました。

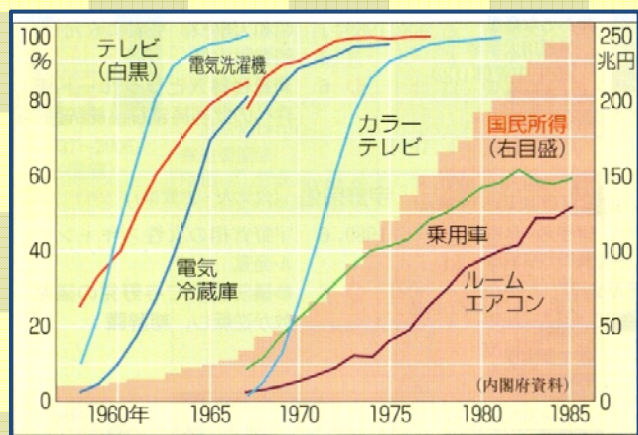
働く場を求めて人々が農村から都市へ移り住むようになると、農村では過疎が進みました。いっぽう都市では、交通渋滞や住宅不足など、過密にともなう問題に悩まされました。



▼東京の通勤ラッシュ(1966 年)



◀捨てられた耐久消費財



▲国民所得と耐久消費財の普及率



▲公害の発生状況

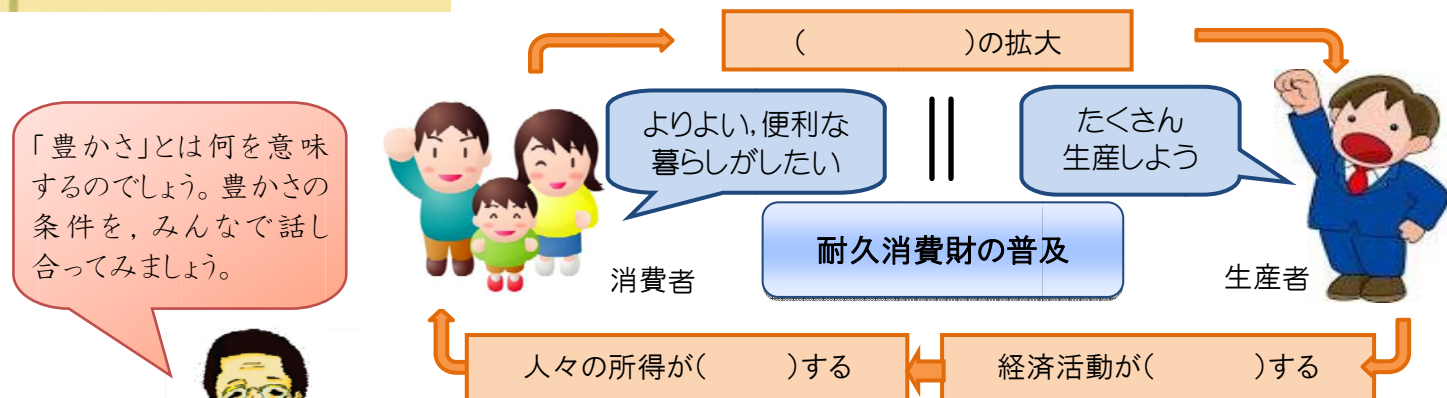
I 用語の意味を調べよう

1. 次の用語の意味を調べよう。

耐久消費財, 消費文化, 公害, 過疎・過密

II 事実の関係を組み立てよう

2. 「経済活動の変化」と「人々の暮らしの変化」は、どのような関係にあるだろうか。耐久消費財の生産と消費に注目し、下の図を完成させて説明しよう。



3. 上の図に下のカードを配置して、高度化経済成長の影響を説明しよう。カードを自作し、追加してもかまいません。

廃棄物の増加

過疎と過密

女性の社会進出

III 当時の時代像を描き出そう

4. 大阪万博のテーマ「人類の進歩と調和」の意味を 100 字で説明しよう。またイラストを使って、当時の様々な立場の人々(工場労働者, 企業経営者, 農山漁村の人々, 主婦, 子どもなど)の主張を描いてみよう。

